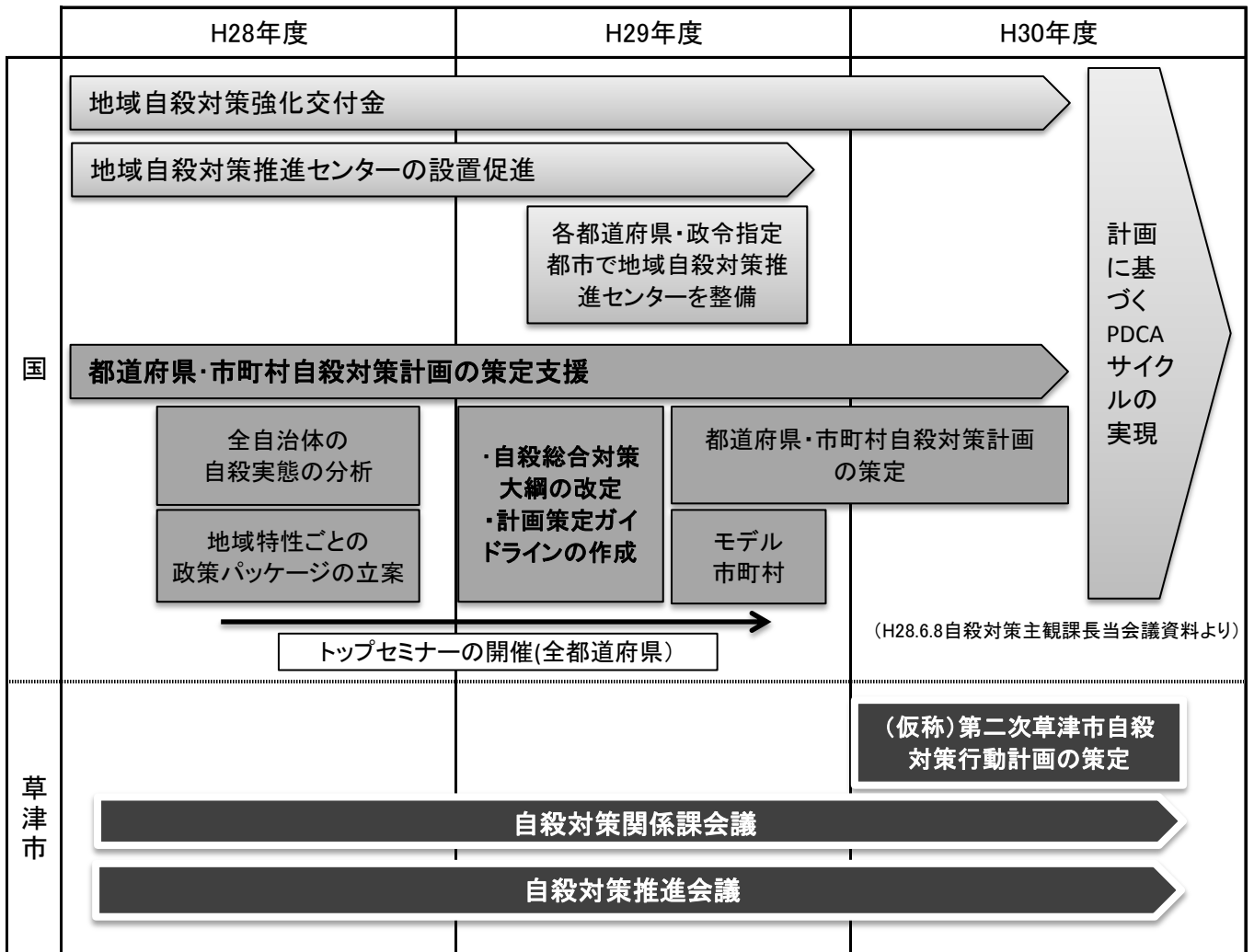


1. 国における自殺対策の方向性について

今後の自殺対策の流れ(イメージ)

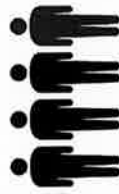


日本財団 自殺意識調査2016 (速報)

記者会見資料
2016年9月7日

1

調査結果<10のファクト>



4人に1人が

「本気で自殺したいと考えたことがある」

1



自殺未遂経験者は

全国53万人超
(推計)

2



5人に1人が

身近な人を自殺で亡くしている

3

調査概要

目的 日本全国における自殺念慮と自殺未遂の実態を明らかにすることで、自殺対策の必要性について社会の機運を醸成し、自殺対策の推進に寄与すること

対象 全都道府県20歳以上の男女
(20～50代の各年代、60～64歳、65歳以上)

回収数 回収数: 44,255 有効回答数: 40,436

期間 2016年8月2日(火)～8月9日(火)
(プロジェクト開始日: 6月22日)

方法 インターネット調査
「あなたご自身に関するアンケート」

3

調査結果<10のファクト>



若者層(20～39歳)は

最も自殺のリスクが高い世代

4

その他に自殺のリスクが高い人は、

身近な人を
自殺で亡くした人

他者は察せず
人間は理解・共感でき
ないと思っている人

過去に虐待を
受けた経験の
ある人

死への恐怖が強い・
生き全うする意志
が低い人

5

調査結果<10のファクト>

6

自殺のリスクを高める要因

家族等からの虐待
生活苦
家族の死亡
アルコール依存
負債(多重債務等)など

7

自殺のリスクを抑制する要因

自己有用感
社会的問題解決力
共感力

調査結果<10のファクト>

8



半数以上が

「自殺のことで相談しない」

9



住み続けたいという人が多い地域は
自殺リスクが低い地域

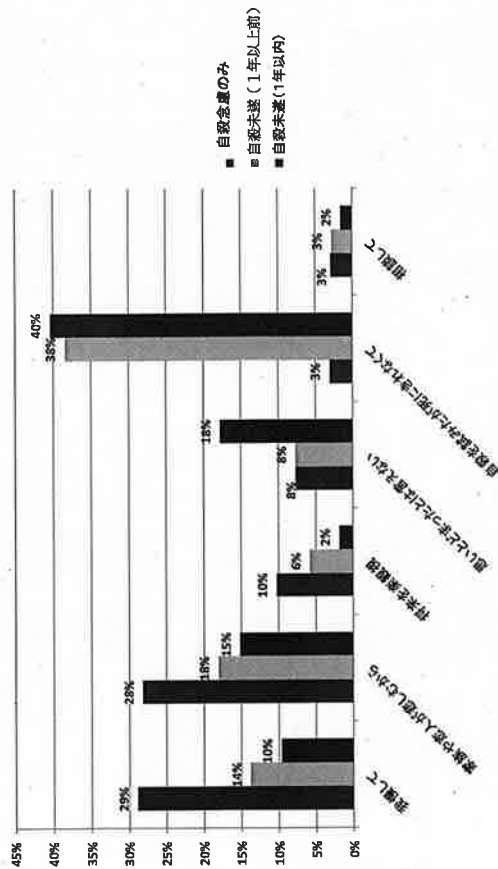
10



自殺未遂を思いとどまった理由

10

自殺を思い止まった理由



自殺対策の方向性への提言

- 1 社会全体の課題として自殺対策に取り組む
- 2 「生きることの包括的な支援」として自殺対策を推進する
- 3 様々な分野の関係者が連携して総合的に対策を行う
- 4 若年層や自殺未遂者など
自殺のハイリスクグループへの支援を強化する
- 5 誰にとっても「生き心地のよい地域」をつくること
自殺対策につながる